

## 文学部教育学科初等教育課程

### 【教員養成の目標】

文学部教育学科初等教育課程では、豊かな人間性と社会性、そして専門的知識を基盤とした実践的指導力を備えた初等教員養成を行う。

学校ボランティアや教育実習等を通して教育現場との連携を密にし、現場のニーズと乖離することなく、理論と実践の往還を図り、以下の力を有する教員の養成を目標とする。

1. 豊かな人間性として、教員としての使命感や熱意、子どもに対する責任感や深い愛情を、さらに社会性として、社会人としての適切な表現力やコミュニケーション力を、それぞれ持っている教員。
2. 子ども主体となる授業を創り出す力として、常に知的好奇心を持って課題を発見し、それに対して真摯に追究し続ける力を持っている教員。
3. 子どもを理解し心の絆を深めることで、その思いを汲み取り、願いを受け止められる生徒指導力、総合的な見地からの確かな判断と行動ができる学級経営力を持っている教員。
4. 教育を取り巻く社会の変化に対して、教育におけるニーズをいち早く掴み、それを自らの実践や学校での実践に反映させようとする、先進性と適応力を持っている教員。
5. 学校組織の一員であるという自覚を持ち、その役割について理解し、関係者と協働して実践する力を持っている教員。

### 【当該目標を達成するための計画】

この目標を達成するために、4年間で理論と実践とが有機的に関連するように教育課程を系統的に配置し、少人数による協働的で実践的な学びを通して、共に創る経験の広がりを図る。

具体的には、「各教科・領域の概論・基礎」・「理論と実践」→「教科教育法・保育内容の指導法」→「実習・演習」という教科・領域に関する系統、「教育実習Ⅰ・Ⅱ・特別教育実習」という教育実習に関する系統、そしてこれらと教職に関する各科目すべてを統括する「教職実践演習」の重層構造による初等カリキュラムの特色を活かし、基礎的な理論の積み重ねの上に実践的な指導力を育成する。

その一方で、1年次からのボランティア等の現場経験を通して、子どもや子ども集団について具体的に学び、その実践の中で、教職の役割や責務の理解を深めることを目指す。

これらの学びを、以下の通り学年ごとの学びを糧として螺旋的に積み重ね、専門的知識を基盤とした実践的指導力を備えた初等教員養成を行っていく。

1年生では、「各教科・領域の概論・基礎」の学びを通して「教わる側」から「教える側」への転換を図り、自らの教師像や子ども像を探究し、教師としての基盤を築く。

2年生では、「各教科・領域の概論・基礎」及び「理論と実践」の学びを通して、子どもと共に創る授業力と、子どもに寄り添い支える生徒指導力を築く。

3年生では、「理論と実践」及び「教科教育法・保育内容の指導法」「実習・演習」を通して、全教科・全領域における確かな教育法と専門性の高い指導法を実践的に築く。

4年生では、「教育実習」での現場実践を通して、理論と実践とが往還する実践的指導を学び、「教職実践演習」において4年間の学びを総括し統合する。

いずれの学年においても教職履修カルテは、履修学生の学びの履歴と成長の度合いを自己検証する重要なツールとして活用する。